

会 議 録

会議の名称	第19回小金井市公立保育園運営協議会次第	
事務局	子ども家庭部保育課	
開催日時	平成27年5月25日(月)午後7時30分～9時30分	
開催場所	小金井市役所第二庁舎 801会議室	
出席者	五園連	東海林一基 委員(くりのみ保育園) 本多由美子 委員(くりのみ保育園) 宮田 優子 委員(けやき保育園) 岡崎 英 委員(けやき保育園) 八下田友恵 委員(小金井保育園) 寺地 理奈 委員(小金井保育園) 石澤 和絵 委員(さくら保育園) 小泉 未紀 委員(さくら保育園) 細部真佐子 委員(わかたけ保育園) 三橋 誠 委員(わかたけ保育園)
	市	佐久間育子 委員(子ども家庭部長) 鈴木 遵矢 委員(保育課長) 藤井 知文 委員(保育課長補佐) 前島 美和 委員(くりのみ保育園園長) 海野 仁子 委員(けやき保育園園長) 小方 久美 委員(小金井保育園園長) 福野 敬子 委員(さくら保育園園長) 杉山 久子 委員(わかたけ保育園園長)
欠席者	なし	
傍聴の可否	(可) ・ 一部不可 ・ 不可	
傍聴者数	16人	
会議次第	1 開会 2 議事 (1)第18回会議録の確認について (2)保育業務の総合的な見直しについて ア 保育課関連予算 イ 公立保育園の運営に関するアンケート ウ 視察 (3)保育の質について (4)小金井市保育検討協議会の設置について	

	<p>(5)当面の課題について</p> <p>(6)次回日程の確認 ※ 視察を含む。</p>
<p>発言内容・ 発言者名（主な 発言要旨）</p>	<p>別紙のとおり</p>
<p>会議結果</p>	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1)第18回会議録の確認について</p> <p>(2)保育業務の総合的な見直しについて</p> <p>ア 保育課関連予算</p> <p>イ 公立保育園の運営に関するアンケート</p> <p>ウ 視察</p> <p>(3)保育の質について</p> <p>(4)小金井市保育検討協議会の設置について</p> <p>(5)当面の課題について</p> <p>(6)次回日程の確認</p> <p>平成27年6月23日（火）19時30分から開催することとした。</p>
<p>提出資料</p>	<p>1 保育課関連予算（当初）における過去5年間の推移（資料70）</p> <p>2 平成26年度公立保育園の運営に関するアンケート（参考）（資料71）</p> <p>3 小金井市保育検討協議会について（資料72）</p> <p>4 小金井市保育検討協議会設置要綱（資料73）</p> <p>5 職員の募集配置状況（資料74）</p>
<p>その他</p>	<p>なし</p>

開 会

○佐久間委員長 改めまして、皆さん、こんばんは。

ただいまから19回小金井市公立保育園運営協議会の会議を開会をいたします。

冒頭、本日14時28分に埼玉県北部を震源地とする地震が発生したということで、震源地あるいは茨城では震度5弱ということで大きな揺れを感じたわけですが、小金井市におきましては震度3ということです。ただ、体感的にはもうちょっとあったかなという感じはいたしましたけれども、一応小金井市は震度3という数値でございました。

その後、すぐに各保育園さんのほうへ保育課のほうから連絡網等で被害状況等あるかどうか、あとお子様等のけが等がないかどうかということについて問い合わせをさせていただいたところでございますが、今のところそういった被害状況があったという報告はいただいてはございません。

今のところ、何か後で見たらこういうことがあったとか、そういったことは特にございませんでしたでしょうか。

また、保護者の方は電車の遅延等でおくれたとかで、引き取りにいらっしゃるのが遅くなったということも特にございませんでしょうか。

わかりました。もし例えば建物とかそういうことで、あとお子さんのこととかそういうことで何か今回の地震のことでございましたら、後日で結構でございますので保育課のほうにお知らせいただければと思います。

特に地震の関係がございましたから、私のほうからお話をさせていただきました。

それでは、議題のほうに入らせていただきます。

大きな2の議事の、先ほどちょっと課長のほうからもお話をさせていただいたところですが、第18回の会議録の確認ということにつきましては5月29日までに委員さんで内容をご確認いただきまして、委員長において修正の上、決定をして、公開することといたしたいと思います。これにご異議はございますでしょうか。ちょっと日程が詰まって申しわけございませんが、これでよろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○佐久間委員長 特に異議がないということでございますので、第18回の会議録につきましてはただいま決定したとおりといたします。

次に、議事の(2)の保育業務の総合的な見直しについてを議題といたします。

資料説明をお願いいたします。

○鈴木委員 それでは、私から資料の説明をさせていただきます。

まず、保育課関連予算として資料70番、保育課関連予算（当初）における過去5年間の推移ということで、保育課の予算について5年間の推移を別表にしたものでございます。平成23年度から平成27年度までの5年間、推移を別表にしております。

表の区分の下の一番上の全体のところにつきましては、参考までに市の一般会計の予算の総額ということで記載をしてございます。

それから、区分の欄、民間それから公民、公立という区分がございますが、当該事業が公民それぞれどちらに向けた予算なのかということで区分の記載をしてございます。

保育所の維持管理に要する経費の中で中段より下のほう、下から3番目ですか、保育園維持管理に関する要する経費のところは予算額が24年度、25年度特に大きくなっています。備考欄に記載のとおり、こちらははげき保育園及びピノキオ幼児園の移転改築工事関係の予算を実施したことによる、措置したことによる金額が他に比べて多くなっているということで、特異なということで備考欄に記載のとおりであります。

それから、一番下の幼稚園の部分ですが、平成27年度から従前教育委員会の学校教育部学務課で行っていた私立幼稚園に関する事務につきまして、今年度、27年度から保育課のほうに所管がえということで、27年度から新たに予算がこちらに入っているという状況となっております。

それから、資料の71番、平成26年度公立保育園の運営に関するアンケート（参考）として本日お配りさせていただいております。

本年度のアンケートの実施ということで、先般確認した保育料の中に記載されているところですが、アンケートの内容等、あるいは時期についてご検討いただきたいと思います。

それから、あともう1点、同じく資料はないんですが、工程表の中にありますように現場視察を今年度、おおむね8月ごろをイメージして工程表に載せておりますが、実施時期それから実施の内容についてご協議をいただければと思います。

事務局からは以上です。

○佐久間委員長 説明が終わりました。

ちょっと3点ございましたので、1点ずつですけれども、保育課関係予算（当初）における過去5年間の推移について、こちらは何かご質問あるいはご質疑等ございますでしょうか。

お願いいたします。

○岡崎委員 けやきの岡崎ですけど、民間保育所等運営に要する経費が5億7,000万対前年よりふえている理由は何ですか。

○鈴木委員 こちらにつきましては、27年、子ども・子育て支援新制度が始まることによって、新たに認可保育所を開設しており、また認証保育所のほうで予算を取っていた部分が認証保育所から認可保育園へと移行した部分がありなどの人数増による運営費等の増ということでございます。

○岡崎委員 じゃ8,000万と5億7,000万が行ってこいで約5億ふえたのは、保育園がふえたからという理解。

○鈴木委員 そうです。

○佐久間委員長 よろしいですか。

○岡崎委員 いや、中身まで確認できないんで、そうですかと言うよりないですよ。

○佐久間委員長 ほかにご質問等ございますでしょうか。

○三橋委員長 いきなりこの資料を位置づけとかなんとかということ若干あると思うんですけど、要は総合的見直しの中で市の説明の中に保育関連で多額の予算がかかるというような説明があって、その多額の予算というのは具体的にどういう内容なのかということとは過去これまでも説明が、この資料も似たような資料が出てると思うんですけども、今般、五園連の中で予算書あったんですけども、27年度の予算が出たということで、27年度について今どういう状況なのかということで数字がこういったことで出てきたということだと思います。ちょっと何か説明がいきなりこの数字の中身なんですけど、位置づけ的にはそういう話で、特徴的なところについては市のほうでもうちょっと説明いただいてもいいのかなとそう思ったりはしますけども、全体の予算が30億2,600万という金額で、これ単位千円でいいですね。という金額がある中で前年比7億円(11:35)ふえている。そのうち私立幼稚園の補助金の部分と、先ほど岡崎さんからあったけども、民間保育園に係る経費というところがかなり大きくふえている。一方で、公立のとこの保育園、我々に一番関係するところの公立保育園運営費のところですか、認証保育所

に関しては認可がふえたからということで減ってるということでもありますけども、公立保育園の維持管理に関する経費などは減っているというところだと思いますので、過去5年間の推移で見てみて、水準的には維持管理費なんかかなり減ってるかなという感じですけど、運営費に関しては過去もうちょっと低かった時期もあるかなというところですけど、このあたりの数字ってどういう意味合いがあるか、ちょっと何かありますか。ちょっとそこまで書く……。

○鈴木委員　　そうですね、三橋さんおっしゃられたように、全体的に財政状況厳しい中で一般的な委託料とか需用費については一律これくらい削減というような形で予算案を組むということをしている状況がございます。なので、ふえてる部分についてはやっぱり利用者の増であったり単価の増であったり、そういう部分が基本的にはあるということです。

すみません、詳細までちょっと説明する内容とか持っていないんであれなんですけども、基本的には公立についてはそれほど大きく減っているのではないと見ているところでございます。

○三橋委員長　　やっぱりあれですよ、毎年毎年事業費の削減があると思うので、ふえたところというのは何か理由があってふえてるだろうと思いますし、減ってるというところについては本当に毎回毎回5%ほど削減といったキャップがあったと思うので、そういう中でやりくりしていただいているという形なのかなと思ったりしています。

こういうところがいろいろと議論の中でも少しずつ、五園の中でもちょっと議論とかありましたけれども、いろんなところで数字に反映してきている。食材とかもそうですし、ちょっとした資料なんかもそうですしというところで、中でもこういうところが変わったなというところが過去にもちょっと話が出てきたのかなということの中で、本年度については維持管理では200万ぐらい、これについては減ってるということだと思いますので、逆に減のところでそのあたりがちょっと、各園のほうにこの数字が落ちていって、その中で園長先生方でいろいろ工夫していただいているとは思いますが、もし何か具体的にということがあれば言ってもいただいてもいいところかなとは思いますが。

○宮田委員　　けやきの宮田です。

すみません、小金井市には認定こども園がないと私は認識しているんですけども、何で認定こども園運営に要する経費が予算がこんなにとられているのでしょうか。

○鈴木委員　　市内に認定こども園はおっしゃるように確かにないんですが、市民の方で認定こども園の他市の施設を利用してる人があるんですね。そちらの部分の費用負担ということで

ご理解いただきたいと思います。

○細部委員　　わかたけの細部ですが、これは予算がずっと来てるんですけども、先ほど言ったように大きくふえているところが民間保育所の運営に関するところということで、新設だったり認証から認可になったところがあるということで、これこの数字の増にあわせて受け入れている子どもの数、それは公立だけではなくて認可も含めて、今この表の中に含まれる対象園で受け入れている子どもの全体の数の推移みたいなものがあるのでしょうか。

○鈴木委員　　先ほどご説明したように、民間保育所の運営経費がふえています。こちらにつきましては認可保育所の新設であったり、それから認証保育所から認可保育所への移行、これも定員の増を伴う変更となっています。ということで、施設の増とあわせて当然それに伴って受け入れる児童数もふえているという形になります。

○細部委員　　何か金額がふえるのには、それだけ子どももふえているのでという推移が見えたらいいなと思いますけど。

○鈴木委員　　定員の比較もできたらちょっと表の中でつくり込めたら、今、ご質問を受けて思いました。ちょっとこれだけだと余りにもざっくりといえざっくりなので、もう少し細かく、ちょっと5年間になるとあれなので、例えば昨年との比較という形で、例えば人数、これによってこのとき何人いたけどこのとき何人ふえたとかそういうような形で、わかるような資料については次回準備させていただければなと思います。

○細部委員　　お願いします。

○三橋委員長　　もう1点ちょっと確認なんですけど、公立保育園の運営に要する経費の中には人件費は入っていない。

○鈴木委員　　人件費は入っておりません。

○三橋委員長　　その一方で、非常勤ですとか任期付きの職員の費用はこの中に入ってる。任期付きは違いますか。

○鈴木委員　　保育課予算については、入っております。職員課で持ってる人件費、例えば産休代替であったり、産休に対応する任期つきだったというのは職員課予算になっておりますので、そちらのほうはこれに入っていない。あと、一般正規職員の人件費も入ってないです。

○三橋委員長　　そうですね。一方で、例えば例の30時間保育の非常勤とかというのはこの中に入っておりますか。(17:42)

- 鈴木委員 30時間保育は職員課予算だから、入ってないです。
- 三橋委員長 じゃあれですか、非常勤の講師だけということですか。
- 鈴木委員 非常勤は11時間パートさんであったり、障がい児の加配もこういった予算ですから、この中に入っております。
- 宮田委員 逆に言えば、正規がパートだとかはそんなに大きくは変わらないんで、ちょっとそのあたりが人員構成で数字が大きく変わったりするのかなと思うんですが、そんなに大きくは変わらないかもしれない。
- 鈴木委員 職員課で押さえているというか、職員課で持っている人件費関係のやつもこの中に給与額、給与として別の資料としてつくることは可能です。
- 宮田委員 ちょっともしわかればというところでいただければと思います。
- 佐久間委員長 今ちょっとご質問がございました定員の推移と、それから正規職員の職員課のほうで持っている数値の件につきましては次回ということですが、申しわけありませんが26年度、27年度の2カ年度でその対比をということで出させていただくということでしょうか。
- じゃそのように整理をさせていただきます。
- 三橋委員長 追加になっちゃうかもしれないですけど、このクリーム色の資料で公立の保育園運営に要する経費と維持管理に要する経費で、項目のあれというのはない、その下の内訳ぐらいちょっと。
- 鈴木委員 今度出す資料で、例えば今おっしゃられた運営に要する経費の中にどんなものが入っているかというのは内訳として出したいと思います。
- 三橋委員長 それはその前年比較のところにもその項目が大体……。
- 鈴木委員 こことの比較で。
- 佐久間委員長 じゃ内訳も記載をして前年対比ということで記載させていただいて、次回お示しをするということでしょうか。
- ほかにご質問等ございますか。
- どうぞ。
- 細部委員 もう一つ、すみません、わかたけの細部です。
- 全体の下にある民間保育所助成に関する経費が1億近く減っているのは、これは何か。民間保育所助成に要する経費というところが対前年比約1億、違った、1,000万か。
- 三橋委員長 うん、950万。

- 細部委員 ごめんなさい、そうですね、1,000万です。
- 鈴木委員 すみません、次回内訳をお示しする中で、ちょっと確認してお答えさせていただきたいと思います。
- 佐久間委員長 ほかにございますでしょうか。
- 宮田委員 すみません、一応5年間のこの推移を出してくださってるんですが、この5年間の先ほどちょっと人数、子どもの定員の数についてお話がありましたけど、この間ですごく人数がふえてると思うんですけど、この前ってちなみに同じぐらいの全体の予算なんですけど、この5年間の前。
- 鈴木委員 以前ですか。
- 宮田委員 はい。
- 鈴木委員 ちょっと確認してみないと、すみません。ここではちょっと軽々に言えないので。
- 三橋委員長 それは例えば気になることが何かあるからですか。
- 宮田委員 いや、その人数が定員がふえていると思うんだけど、何か全体の額は変わらずにこの中の操作というか、項目で増減があるだけなんだなと思って、ちょっと驚いています。子どもがふえているから、予算もふえているのかなと。
- 鈴木委員 26、27についていえば、一定施設を開設したりとか、そういうところで受け入れ児童数については相当増している状況ではあります。それ以前については、認証を25年度に1カ所ですか、東小金井のココファンナーサリーを開設したというのがあって、ちょっとすみません、確認をさせていただいて、正確にお答えしたいので、次回。
- (23 : 22)
- 宮田委員 もしわかれば、よろしくお願いします。
- 三橋委員長 定員数の推移みたいな形でお出しするように。だから人数に比例する部分と、人数に比例全くしない数字とあると思うんですよね。先ほどの話じゃないですけど、助成関係というのは人数なり各園なり、そういったような形になると思いますし、運営などもある程度人数に比例するところもあるのかなと思ったりするんですけども、やっぱり維持管理などは全くそれとは関係ないと思いますので、そのあたりを含めて数字で捉えられるところについては、人数もある程度項目というか、認証保育所とか民間保育所とか公立保育園とかという形でちょっと分けないと、うまく数字が見えないところがあると感じます。
- 鈴木委員 施設ごとの定員数というのは、過日、出しましたね。

○佐久間委員長　じゃ定員については、推移がわかるものということでお出しするということで整理をさせていただきます。

ほかにご質問等ございませんか。

どうぞ。

○岡崎委員　すみません、しつこいようですけども、これ実績じゃないんですよね。予算ですよ。実績はほぼニアリーイコールとっていいんですか。

○鈴木委員　年度の途中で、補正予算という形で基本的にはふやしていく形になります。なので、26年度中にも当初に間に合わなかった、あるいはそういうタイミングではなかった予算で途中で増額の補正をしたりしておりますので、そういう意味で正確に年度間の執行も確認したいというのであれば、決算の時点になるんですね。

○岡崎委員　毎期補正してるんですよ、補正予算出してる。出さない年もあるんですか。

○鈴木委員　毎年度必ず補正をしているかな、保育課についていえば、年4回市議会がございまして、その議会のタイミングに合わせて補正予算という形で議会のほうでご審議いただいている。

○岡崎委員　それともう1点、ごめんなさい。人数ふえてるから予算ふえてるということで、27年度が一番下の幼稚園を含めなければ7.45%。ずっと5%台で6%台で今期7%なんですけど、割合でいうとどうなんでしょうかね、他市と比べたことってありますか。もしわかれば。

○鈴木委員　特段他市と保育園費の関連で比較したことはないです。それぞれの自治体によって、例えば施設を新たにつくるとか、あるいはその施設をつくる内容が認証をつくっていかうとかあるいは認可をつくっていかうということによって変わってくる部分があるので、単純になかなか比較しづらいというのがあるんですね。なのでちょっとやったことはないんですけども、ちょっと近隣で比較というのは可能は可能かなと思います。ただ、児童数が違ったりとかというのがあるので、それを例えば児童数で割り返して1人当たり幾ら使ってるかというのは可能だと思うんですけど、単純にざっくりした数字しか。

○岡崎委員　それしかわかんないんですよ。結局額とかわかんないから、絶対数が違うから。そうすると、もう1人当たりか割合かで比べていくしかないですよ。

○鈴木委員　そうですね。

○三橋委員長　よく言われるのは待機児がこれだけふえる中で、どれだけ人数をふやしました、どれだけ負担をかけましたかということで、新聞ネタ的には人数これだけ、これだけ金額ふ

えましたというところがちょこちょこ話題になったりとか出たりとかしてるんですけど、そういったベースがちゃんときちんと数字で捉まえて比較できるということが一番いいんですけどね。なかなかちょっとそういったところを役所の方に聞くと、ちょっとそういった数字というのはなかなか、組織的には出しやすいんだろうけれども、ちょっとこういう場でちゃんと比較するとどうかということをおっしゃられるんですけども、できればちょっと小金井はどれくらい他市と比べても予算つけているんだろうかと。

○岡崎委員　　そうでもないみたいだね。

○三橋委員長　　うん。

○岡崎委員　　定量でだって合わさないと、1人当たり幾らかかります、これが適正ですかなんてわかんないわけじゃないですか、ある意味では。一つのバロメータとかベンチマークすると、1人当たり幾らかかって、ふえてるから幾らふえてましたというふうにしかなかないんじゃないかなと思うんですけども。

○三橋委員長　　今回はたくさんつけていったりするんで、そういったところで少し他市と比較しても遜色ないくらいなレベルですみたいなことが言えるといいかなと逆に思ったりしますが、どうかなというところですね。

○細部委員　　わかたけの細部です。

あと、私もちょっと予算というのを見落としてたんですけど、恐らく着地の額というのも本当はこの間に入って、それに対してこの推移をどう評価するかというのが事業計画をやるときにはあるんですけど、この数字に対して市のほうでどういう評価をするのかなというのが聞きたいなど。

例えばこれだけを見ると、民間のほうに随分27年度はお金がやっぱりかかっている分、公立の保育園はちょっと人をふやしたりもしているけれどもかなり予算削って頑張ってるというふうに見えるか、それともこれが今までちょっとふえ過ぎた分を減らした中で適正にやっているかみたいな、そういうちょっとこの項目をどういうふうに分、評価してるのかなというのを知りたいんですけども。

○三橋委員長　　例えば、それはちゃんとあるじゃないですか。大体年末ぐらいに事業評価報告書の中で重立った項目については評価をされていて、例えば公立保育園の維持管理に関する経費は何かというところで、ちゃんときちんと内容だとか今後の方向性、予算が今後どれぐらいの方向に行くとかとか幾つかちゃんと決まった項目があって、それに対する評価みたいなのをしているんですよね。

- 鈴木委員 行政評価のことですかね。
- 三橋委員長 そうです。あれじゃないんですか。
- 鈴木委員 あれはちょっと違いますね。
- 三橋委員長 単位が違ってらんですか。
- 細部委員 評価という言い方がちょっと適切かはわからないんですけど、例えば公立保育園の運営に関する経費というのは確かに25年度から26年度の予算では大分ふえてしまっているんで、その分を27年度は抑えているというふうに見るのか、ここは本来かかるものを大分抑えてしまっているのかというところがちょっとこの表だけだとやはりよくわからなくて、できればそういった各項目の増減の要因的なものももう少しあるといいのではないかなとか、今後議論をしていく上では必要になってくるかなと思いました。
- 佐久間委員長 今のお話、確かにそうだと思うんですね。ただ、少なくとも直近の26年度につきましては5月末までが出納整理期間ということで、26年度はまだ決算が出ない状況なんですね。実際に決算を議会に報告するのが9月の議会になってしまいますので……。
- 細部委員 9月。
- 佐久間委員長 そうなんですね、毎年9月なんですね。それが最終的に決算書でき上がるのは8月の頭ぐらいだと思うんですが、実際に議会に諮って認定を得るのが9月の議会になってまいりますので、そうすると決算額の数値も出ているものは25年度までということで、ちょっと比較するのもどうかかなというところは、26年度の決算が出てみないと比較としてどうなんだろうというところはちょっと私として心配なところがあるんですね。
- それでこの表のつくり、推移が必要というようなご要望がありましたので、当面予算額で比較しようということで作ったものでございますので、先ほどありましたようなご要望について、多分できるところは次回にお示しをさせていただきたいんですが、決算にかかわることについては26年度はまだ出ないということで、ご理解をいただきたいなと思っております。
- 三橋委員長 やっぱその決算の数字自体が、それはそれで予算に対して決算だとかあるいはどれだけ余ったとか足りてるかというような分析の仕方というのも一定はあるんですけども、ただ、ここではあくまでも27年度予算が出てきましたということ踏まえて、その予算予算で比較するというところに非常に意味があるところ、当初予算についてどうか。補正というのは臨時的なものがあって、単発的なものであればそれで終わりですし、

恒常的なものであれば年度の次の当初予算に反映しているので、要は予算予算で比較してる分、その増減という形で見ればある程度見えてくるものだと思うので、あくまでも予算ベースで同じような基準で年度ごとに見ていくということというのはそれなりの意味がある内容かなと。

そういう意味で見たときに、27年度の数値としては2億700万という金額が公立保育所の運営に関する経費としてあって、先ほども細部さんがおっしゃられたとおりこれが水準的にどうなのか、増減としてどういう意味があるのかというところは単に単年度で見るだけでなく、少し推移で見たほうがいいかなというところがあって5年間の数字を見させていただいて、この数字というのはそういう評価する必要があるのかなということなので、東海林さんの言われた中身の項目も含めてどのような内容なのかというところは見ていったらいいんじゃないかなと思ったりします。

○佐久間委員長 ありがとうございます。

ほかにご質疑等ございますでしょうか。

そうしましたら、また最後に、もし途中で気がかりということがまたございましたらおっしゃっていただきたいと思います。

次の資料の資料71、平成26年度公立保育園の運営に関するアンケートにつきまして、ちょっと説明は細かくはしていないんですけども、内容については全問ですか。

○鈴木委員 はい、この資料71につきましては、昨年末に行ったアンケートの用紙そのままです。アンケートを行うときにやっぱり経年で傾向の変化を見ていくとか、そういう必要は当然あると思っております、この項目のほかに何か新たにこういうことを聞くべきじゃないとか、こういったことの中に新たな項目を挙げるべきじゃないかななどのご意見と、あと実施の時期、そこら辺についてちょっとご協議をいただければと思います。

○佐久間委員長 その前年を踏襲したというのは、比較ができるようにという考えがあってということですよ。

○三橋委員長 一般的な1番、2番というのは、どちらかというと今までの、2の(1)についてはある程度継続的に見ていくような中身になっていくのかなというふうに思います。

1番のことについては、大体どこのアンケートの対策、評価などでも似たような質問をするケースがありますけども、2番についても項目の細かいところはまたこの中でちょっとお話をしたりして、比較とかやってきたんです、こういったような対応というのは過去ずっとやってきてる内容ですので、ここで2の(3)以降ですかね、これは前回、1

人いくつということを追加してきたところですか、あるいは延長保育だとかそういうところについては当時議論をかなり詰めてやってきたところがあったんで質問したところなので、このあたりについては多少こういうようなこの1年間の議論を踏まえてこういったことを聞いてみたいとかここはあるんじゃないというところはまたいいと思いますし、ちょっとこういった物理的にわかる部分からもうちょっと中身の話も大分してきましたので、そういった観点でどこまで理解なり父母のほうで意識づけがあるのかということも聞いてみるのも一つかなと思ったりはしますので、ちょっとこのあたりどうですかね。皆さんの中で、別にきょうこの場でというよりも、少し持ち帰って確認なり議論してまたこの場で議論できればなということで、時期的なところも含めて一応去年と似たような時期ということであれば、9月ぐらいということですね。ちょっと中身は見てたんですけどね、もう少し早くやってもいいかなと思うんですけど。

○佐久間委員長 今、三橋委員長のほうからお話がありましたように、アンケートにつきましてはちょっとお配りしたばかり、昨年と同じということですがけれども、内容とそれから実施時期につきまして持ち帰っていただいて。(38 : 00)

○三橋委員長 そうだけど、7月ぐらいにやりましたね。7月から8月にかけて、前回は運協でやったので時間ちょっととりましたけど、そうすると次回ぐらいはあらあら出して行って、意見出してという形で、それも含めて次回で何とかなるかなと。もし意見とか事前にあるようでしたら、もうご遠慮なく僕経由でも構わないですし、事前に言っていれば、それを含めて検討しておきます。なかなかちょっとすぐにぱっとということであれば、あるいは皆さんの意見を聞きながら議論していくのであれば次回、その場でも構わないので、とりあえずこういった内容について持ち帰っていただければと。

○八下田委員 小金井保育園の八下田です。

最初に思ったんですけど、これ毎年同じ内容で比較するとおっしゃったんですが、これ書いてるほうは去年もこれ言ったのに全然改善されてなくて、何でまたこれアンケート聞くんだろうということを思っちゃうと思うんです。例えば去年すごい一生懸命書いて、こうしてほしい、改善してほしいとか現状こう思ってるって書いたのに、アンケート結果は出ると思うんですけど、それでまたアンケートをとって、改善しますって書いてない。ただ検討する上で大事なアンケートですということだから、これをもとにどうにかしますということを書くと書か、去年と同じ内容ですけどみたいなことを書かないと、去年と同じで一生懸命書いて、例えばセキュリティーどうしてほしいとか延長保

育8時までで何か変わるのかな思って一生懸命書いたら、全く変わなくてまた1年後に同じのが来たというふうに普通の人は思っちゃうと思うので、それをこのさっき同じアンケート内容ですということの意味とか、あとこれをもとにどうやっていくとか、改善するためにこれをやってるのか、ただ聞くためにやってるのかということを最初の文言で書かないと、これ子どもが3名とか4名いる人は3回も4回も毎回一生懸命書いてることになっちゃって、何かこういう話してる人はわかってると思うんですけど、一生懸命書いてる人はちょっと何の意味があるんだろうと思っちゃうんじゃないかなと思って感じました。

○三橋委員長 八下田委員のおっしゃるとおりで、このポイントというのはもちろん毎年毎年とって検討していくということなんですけど、一方でここで親へのアンケート結果で資料16のところを書いてある中で、あるいはここには書いていないかもしれないんですけど、大体毎年五園連でやってるときなどはこれをもとに意見、要望を提出して、その結果というのを市のほうから書いてもらって、五園連ニュースという形でフィードバックしてということはやっているんですよね。それなどをきちんとこの説明をした上で出しているんですけども、ただ、それでも多分そこまで理解しているかというとなかなか難しいとは思って、またこれと一緒にそういうのをつけて置いたりとか、実際どれだけ改善したのかとかというところ。

○八下田委員 そしたら、アンケートの結果は五園連を通して出しますとか書かないと、アンケートだけとって何かこれ。

○宮田委員 出してるんでしょ。出してるけど、あのちっちゃい字じゃ誰も読まないという。

(42 : 55)

○八下田委員 すごい読み込めば一生懸命あれなんですけど、それだけみんなが一生懸命書いてるんだなってあれをいつも見て思ってた、みんなそれだけどうにかしてほしいと思って、ない時間を割いてアンケート書いてるから、何のためのアンケートと思っちゃいますよね。もう3回も4回も書いて。

ここの頭の文言をもうちょっと考えたほうがいいんじゃないかなと。同じ内容ですということも。

○三橋委員長 去年は同じ内容でも、どんどん書いてくださいって。

○八下田委員 多分、8時までの延長っておとしはなかったですよ。

○三橋委員長 おとしはなかったです。

○八下田委員　　ですよね。去年初めて多分あって、じゃ何か近々変わるのかなと思って一生懸命書いたけど変わんなくてもう一回同じアンケートって、何か何回も聞いてどうするんだろうって普通の人は思っちゃうと思うんで。

○三橋委員長　　八下田さんおっしゃるとおりなんです。ただ、これは五園連合あるいは父母に対しても毎回やっぱりそのギャップがあるんですけども、多分市に要望とか出すとすぐに何か改善してくれるとかすぐに何かできるというふうに思われる方が結構多いし、実際この声に期待をして議論はしてるんですけど、例えば今まで看板を立ててもらったとか細かい、セキュリティーのところで鍵がかかったとか、あるいは今議論されてる中でもちよっと病院の中で少し動きがありました、ああいったことも少しまとめられてきたとか、あるいは異年齢保育の評価についてもこちらから要望して出てきたとか、そういうのって多分3年とか4年越しですよ。採用までに4年間ぐらいかけてようやくできた。もちろん遅過ぎる、少な過ぎるという根本的な問題はあつたりするんですけど、かなり複数年度にまたがってやってるという話の中で、そういったところを父母がどこまで理解できるかということも含めてだと思っと思うんですね。

普通、言ったらすぐに、3年も4年もこのことに時間かけるのかということころは僕もちよっと思ったりはするところはあるんですけども、継続して要望していかないと、それこそ病児保育だとか病後児保育だとか予算がかかるようなことなんていうのはそういうケースが結構多かつたりするので、我々もちよっと父母に対してそういった目線を持ってくださいということをする一方でやっぱり切実な思いはあるので、もう来年になったらすぐにも変わんないのかということころも市のほうに伝えていかなきゃいけないところなのかなと思ったりはしますが、ちよっとこのギャップというのはいかんともしがたいですね。実際、僕自身も何年も議論してて思うところではあります。

○宮田委員　　でも10年以上やってますからね、もう10年以上たってますから。

○鈴木委員　　進行というか実現がなかなかかなわないというのは、五園連さんの対市懇談会とかあるいは役員会とかに顔出したときにいろいろご要望いただいて、なかなかそれが実現難しかつたりするというのは大変申しわけなく思っているんですけど、少しずつは進歩している。遅いよと言われてたらそれまでなんですけど、少しずつは改善をさせているところをもうちよっとご理解いただきたいなと思っています。

三橋委員長からもありましたように、複数年かけてなかなか進まないという実態は確かにあつたりして申しわけないと思っっているんですけども、とりあえずこういう要望等

を我々のほうもいただけると予算編成とかそういう際にも活用できますし、我々もニーズをつかみながらやっていくという大前提持ってますので、答えになってないかなとは思うんですけども、少しずつ進めていきたいというふうに思っているところです。

○宮田委員 けやきの宮田です。

いつも市からの回答が、これこれこういうことは検討します検討します検討します。末尾がほぼほぼ検討しますで終わるんですけど、何年かたつと皆さんからいただいたご意見をもとにこうしましたというのが突然ぽんと出てきて、いつの意見だっけと忘れちゃってるんですね、こっちも言ったことを。なので、これいつからやってたものなのかを回答に入れていただけると非常にありがたいんですけど、というのが一つと、あとアンケートをこれ去年と全く同じという意見が今八下田委員のほうから出ましたけど、恐らく覚えてる人のほうが少ないかな。同じアンケートだって、書いていくうちに、あれ、去年と同じかもという人は出てくると思うんですけど、これ全く同じアンケートって気づく人ってほぼほぼ、この会に出てる人たちは気づくと思いますけど、この会に出ない人たちは何か似てるで終わるかなと。

というのが、毎年けやきでこの形になる前、同じようなアンケートをつくってやっていて、同じだねって言われたことが一回もないので恐らく大丈夫じゃないかなと思うんですけど、ただ、去年出したアンケートでこういう結果があって、市からこういう回答があって、これは今こんな状況ですというのが資料として出ると、ああ、こうなんだというみんなにわかりやすい資料にはなるのかなという気はします。できるかどうかはちょっと置いておいてですけど。できればそれがみんなには一番いいと思う、私たちにもいいと思うんですけど、そういうのができるといいなと思っています。

○三橋委員長 そうですね、全員に配布するものなので、ちょっとボリュームとかも含めてなんですけども、五園連ニュースみたいな形で出してるような、こちらから出した意見とか要望と市が出してる回答みたいなものをこれつけたほうがいいのかとか、あるいはアンケート結果なども20ページぐらいになっているのかな。一応一個一個保護者が丁寧に読んでいるつもりですし、何かにつけてご指摘はあるんですけども、市の方も全部読んでいただいと当然と思いますが、そういったところですかね。それをきちんと議論の中で生かしているというところをちゃんとアピールする必要があると思うし、あとは今の宮田さんのお話じゃないんですけども、その場その場で皆さんがことしと去年の状況が変わってたりとか、同じアンケートなんだけれども多分そのときの状況によって、年次が

上がってくると要望する内容も変わってきたりとかいうのもあったりはしますし、満足度のところももしかしたら変わってくるかもしれないので、そういったところを捉まえていくということも大事ということで継続的にとっているところであるので、そういったところももし必要であればちょっと少し最初のところで載せていくということなのかなと思います。

○佐久間委員長　じゃ今ご意見いただいたように、この表記の仕方、1枚目の説明についてはもう少しわかりやすい形に変えていければと思いますので、それは変更させていただきたいと思います。

ほかに、この件に関しましてご質疑等ございますでしょうか。

○東海林委員　五園連でちょっと話したんですけど、このアンケート、これはこれですごくいいものだと思うんですけど、全体的にはやっぱり要望という形のデータをとってるんだと思って、父母の側から市に対して要望するというのとは一つ要素としてあっていいと思うんですけど、今の段階で何かすごくとっといたほうがいいんじゃないかと思うのは、これ1番のところで何%だか忘れちゃいましたけど、大体①か②のおおむね満足しているに大体丸がつくんですね。だからどっちかというところと今の父母の感覚というところと、こういった面について、この件は満足してるんだけど、もっと新しくこういうところというのは一方でありつつ、どっちかというところをなるべく長く維持してほしいという意見も僕はあると思うんですね。

そういう意味では、こういった中でこの辺をどんどんよくしてほしいというアンケートももっともなんですけど、今の公立保育園の中でこういうところがすごく気に入っていて、あるいは自分のニーズに合っていて、今後ここはなくさないでほしいというような要素を拾ってあげるとするのは大事なんじゃないかなと思うんです。

そういった意味で、多分逆に今のところ余りしてないんだと思うので、一人一人のお父さんお母さんは先生とのやりとりの中で公立ですごくよかったという感覚は持っている方多いと思うので、ちょっと質問の内容をどういうふうにするかはしようという議論はちょっとわかんないんですけど、そういうものを項目に一項目なり検討していただけたらいいのかなと。

○三橋委員長　ありがとうございます。聞き方の問題だと思うんですけど、例えば今であれば満足している、おおむね満足しているということに対する理由についてという形で聞いていて、理由についてというところがイコールここはなくさないでほしいということになればと

いうところはありますけど、もうちょっとストレートにここはなくさないでほしいというか、あるいはそれが保育の質に関係してくるのか、サービスの内容になってくるのか何とも言えませんが、ちょっとどういうふうに捉まえたならそれがうまく出てくるのかという、要は聞き方の問題ではあると思うんですけどね。1番のこういうのは普通の一般的なよくある聞き方ではあるので、それをもうちょっと東海林さん言われるような趣旨でできるかどうかというところだと思うので、具体的にちょっとどういうふうに落としていくか。それは選択肢の項目があったほうが丸がしやすいものなのか、それとも本当にもう今現状いいところは何ですかみたいな感じで自由記述にしたほうがいいのかというところも含めて、ちょっともう一回どういうふうにやったほうがいいのかかがあると思うんですけど。

○宮田委員 あなたの考える今の保育園のいいところを5つ挙げてくださいますか好きなだけ挙げてくださいますか、いいところ、好きなところを挙げてほしいというふうに書いたら、いいところがいっぱい出てくるんじゃないかなって今ふっと思ったんですけど。

○三橋委員長 それを聞くと、逆のこともということですよ。

○宮田委員 逆も聞いていいことだと思います。

○八下田委員 そしたら、この1のよろしければ理由について具体的に記入くださいますか、よろしければじゃなくて必ず書いてください。（発言する者あり）必ずというよりも、満足している理由、満足していない理由について具体的に教えてくださいとすれば、多分今おっしゃっていたことが聞けるのかなと思うんです。

○細部委員 わかたけの細部です。

1番も2番のようにどういうニーズがあるかと同じように、(1)番、満足している、おおむね満足しているという選択にして、(2)として満足している、おおむね満足しているを選択した人はどういう項目が満足していますか、5つ選んでくださいみたいなものと、あとその他ということのできるだけ具体的にみたいなものにすると、満足している人たちがここがいいと思ってるというのは順位つけやすいと思うんです。

○三橋委員長 書きやすいですよ。そのときはぜひ前回書いてくれたアンケートがあるので、そののやっぱり自由記述で書いてもらったやつは物すごくいっぱいあるんですよ。100件以上あったような気がしたので、それくらい書いてくれる、項目で分けると。そういったものをほぼ分類してやるというのも一つかなって思ったりもするので、そのあたり去年からのステップアップするようになっているのかなというふうに思ったり。

確かにこれを資料にするというか、どういう観点でその5つの項目にまとめるかというのは非常に難しいところは確かにおっしゃるとおりあると思いますけど。

ただ、これも本当のことはあれですよね、例えば長期計画の満足度調査などだとこれを要因別みたいな感じで、これ施策の分野別にしたりとかしてアンケートとるんですよね。同じようなことが今回の我々のアンケート、重立ったところはこういうところなんのでということで、ちょっとこういう分野、こういう分野とかこういう内容という形で、そんなに具体的な感じにすると難しいところがあるかもしれませんけど。

○佐久間委員長　そうですね、ちょっと検討させていただきたいと思います。余り項目がふえてしまうとそれだけ集約に時間がかかって、それをまとめて、さっきちょっと課長のほうも申し上げましたけれども、こういったアンケートも一つの材料として予算要求のほうはいたしていきたいというふうに考えているところはあるわけですので、大体予算は9月ぐらいにはもう一定の内容が決まっていきませんかと予算要求は難しいということがありますので、その集約に非常に時間がかかってしまうことでそのチャンスを失ってしまうということも市としては残念なことだと思っておりますので、今いただいた意見につきましては参考にさせていただきたいとは思いますが、ちょっと調整をさせていただくということで。

○三橋委員長　予算要求という観点でいうと、前回ちょっと少し遅かったところがありますね。ことは早目にやりたいなというふうに思います。7月ぐらいにはやれるような形にしていきますので。

○寺地委員　小金井保育園の寺地ですけども、予算要求というふうにやってくるのであれば、やはり前のアンケートの結果も人数を知りたいとおっしゃっていたので、そのアンケートの結果にその人数も踏まえたやっぱりアンケートにしないと、具体的に何がニーズとして上がったのかという部分がやっぱり必要だと思うんですよね。フィードバックが必要だと思うので、アンケートの質問やっぱりもうちょっと変えたほうがいいんじゃないかなというのはあります。例えばこの辺の延長保育については、それこそアンケート結果、ニーズを踏まえたまた聞き方をしたほうがいいのかなと思います。

○三橋委員長　そうですね、例えばこのアンケート調査結果の資料4については、これ20ページぐらいあるので、これを意見いただきながら書いてもらうのがいいのか。それとも先ほどの宮田さんのご意見じゃないですけども、去年のことは結構もうさっぱりと、今の気持ちで自分の考えで、人の意見にとらわれずに書いてもらうというのも一つなのかも

しれないので、アンケートの中身に関しては、今お話あったとおりの去年のやつを踏まえて我々としてはいろいろ検討してやらなきゃいけないと思うんですが、これを書くに当たっていろいろ事前の認識なり読まなきゃいけない資料がふえればふえるほど回答するのはなかなか大変なので、期待するので、一応去年こういうことをやりましたということについてはここに前文のところを書いて、ここに参考になりますとか、あるいは場合によって検討するのもありかもしれませんが、それを読まないアンケートがとれないとか、去年のやつはこうなりましたというところを踏まえて回答してくださいというようなところでまた違うという、そういうことが言いたいことじゃないとは思いますが、もう少しさらっとできるような形にしてもいいのかなというふうに思ったりはします。

○佐久間委員長 ほかにご質疑等ございますでしょうか、アンケートに関しまして。

(「なし」の声あり)

○佐久間委員長 それでは、アンケートにつきましては以上で終了させていただきます。

次に、視察の(2)、ウの視察の件でございます。

時期も含めてご協議をいただきたいと思いますが、ご意見等ございますでしょうか。

○三橋委員長 親の中でも、何かこういうところへ行きたいとかという話とかはちょっと聞いてはいたのですが、もしよろしければ。

○本多委員 くりのみの本多ですけれども、以前に今回の視察は市内でというお話がちょっとあったかと思うんですけれども、そういった方向で考えていくということではよろしいですか。

○三橋委員長 市内でというのはこちらで何か方針があるわけじゃなくて、逆に委員のほうからそういう要望が、声もちらっと聞いたりはしたので、そういったことは当然できますよという話だったので。

○本多委員 まだそれが前提というわけではない。

○三橋委員長 じゃないですね。

○佐久間委員長 何かご意見ございますでしょうか。

○本多委員 そうですね、市内はちょっと見たいなと思うところは何カ所かあります。

1:02:49

○宮田委員 私も市内のほうが見たいですね、やっぱり。

○杉山委員 昨年度もやはり一つの園を見る時間がとても短かったなというのがありますので、せっかく見せていただくんでしたらポイントを絞ってきっちりと時間をとっていただくよ

うな視察にさせていただきたいなというふうに思います。

○三橋委員長 園長先生方は市内の保育園というのは結構見られていたりするんですかね。そうではないということですか。

○杉山委員 幾つかはついていただいたことはありますけれども。

○鈴木委員 ちなみに去年、前回、委員でなくて参加されてない方もいらっしゃるので話しますと、去年は8月22日9時からおおむね5時ぐらいですかね、5時半ぐらいに帰ってきたんですけど、そういうようなイメージで視察をしています。移動はマイクロバスを使っておりました。

場所については、三鷹市の社福でやられている井の頭保育園、それから国分寺市立のこくぶんじ保育園と国分寺市立恋ヶ窪保育園、3カ所視察に行きました。3カ所を回ったことによって、1カ所当たりの時間が短かったかなという反省は出てきていたのかなというふうに思っています。

ちなみに、午前中9時半から11時半まで井の頭保育園、それから午後、国分寺の2カ所を1時過ぎからと4時ちょっとぐらい前までですかね、2カ所を移動しながら見たというところで、昼寝してる最中であったりしたので子どもの状況がよく見られなかったなとか、そういうご意見もいただいたところです。

自分的にちょっと心配になるのが、長時間同じ施設に滞留するとなると、例えば委員が18人いるわけでね、果たして施設側としてそれはちょっと厳しいのかなという気もしないでもないので、例えば幾つかの班に分かれても可能かなという、長時間見たい、あるいはその特定の時間帯だけ見たいということであれば同時にやっぱり見れないわけですので、幾つかのグループに分かれてこのグループはここ、ここはどこ、同じ視点を持って見つつ比較をするというやり方もあるのかなと。

○三橋委員長 去年、園長先生のほうからもこういう視点があります、こういう視点見たほうがいいですよみたいなところを若干いただいているので、あれはちょっと資料預かりにして、しっかりとことしも引き続いて、お互い。

市内を見たいというのは、保護者の方が例えばくりのみへ預けてて、それでわかたけに切りかえるというイメージではなく、違う施設を紹介をしたいと思います、民間を見てくれという意味合いですね。

○宮田委員 けやきの宮田ですけど、民間保育園が見てみたい。というのが、うち緑小ですけども、緑小はけやきの子が少なくてしんあい保育園の子はすごく多いんですね。しんあい保

育園、お話をいろいろ聞くと、幼稚園みたいなことをいろいろやっていて、運動会でも年長さんは組み体操をやるだとか、何かそういう公立ではちょっと考えられないことをやっているの、発表会とかも結構あるみたいなんです。ちょっと聞いただけなんで私もわかんないんですけど。

あと、しんあいさんだと8時まで延長保育をやっているのかな、たしか。また昔の話をしちゃいますけど長女のときには何人か8時までの延長保育を使っている方がいらっしやったという話を学童のほうでも聞いてますので、そういった結構、今、公立保育園に通わせてるお父さんお母さんたちがこうだったらいいのになというのを、もしかしたらやっているケースだったりするのかと思ったので、ちょっと見てみたいと思いました。

別に今が不満というわけじゃないですよ。若い新しく入ってきた方に聞くと、こういうことはやってないんですかという方が結構いらっしやるので、そういった方たちに対する何か気づきがあればいいなってちょっと思ったので。

○三橋委員長 具体的な園名まで言っていただきまして、ありがとうございました。

まず、認可、無認可なのかあるいは認証なのか、あるいは話があったようにどういう視点かといったときに、今言った幼稚園的な要素みたいなことを含めてだと思いますけど。

ほか、どうですかね。

○石澤委員 さくら保育園の石澤ですけど、私も何か同意見で、いつも公立保育園のよさがという話で、やっぱりちょっと民間の保育園のことが余りにわからないので、そのよさを比較する上でやはり違いが見えると、こういうものはやっぱりいいから残していきたいとか、こういう部分はもっと変えていける可能性があることなのかどうかみたいなものもちょっと含めて民間園のことは知りたいなと個人的には思っています。

○三橋委員長 ありがとうございます。

○佐久間委員長 ほかにございますでしょうか。

○東海林委員 くりのみの東海林です。市のほうで逆にぜひうちに来てくださいというところはないんですか。見学というと正直負担にはなると思うので、だけでも新しい協議体もそうですけど、ちょっとデリケートですので、別に却下していただいてもいいんですけど、公立保育園でやっている中で、逆に民間だって認証さんだってそれぞれ自分たちのやり方でいいと思う保育というのをやっていらっしやる場所があるんですけど、そういうところでぜひうちに見に来ていただいて、評価の話でしたけれども。

正直、僕は去年何園か行かせていただいて、いわゆる民間園という勝手に想像してたのと大分印象が違ったんですね。そういう意味で、公立保育園の父母で誤解している部分もひょっとしたらあるのかもしれない。それはぜひうちの園に来ていただいて、うちの園でこんなにいい感じでやってるから、ぜひ公立のお子さん方も見ていただけませんかというのはあってもおかしくないと思うんですけど、。

○鈴木委員　　いずれにしても、民間の施設につきましてはその運営者がオーケー出さないと見ることはできないので調整することに当然なりますが、ぜひうちへも見に来てくださいというふうに今までそう言われたことは特になくて、ただ、声をかける中でそうすることがぜひという話があることは当然あると思いますので、ちょっとなかなか施設の都合であったりということでもなかなか受けられないところもあるかもしれないので、今、ご希望、実際のお名前出てきましたけども、ちょっと現在それは確認できないとこですね。

○三橋委員長　　じゃ今、市内という話がありましたので、できるだけそれに近い形で、時期も先方のことがあったりしますから、前回8月でしたかね、暑い中になりますけど、可能な範囲でということ。

認証というよりは認可という感じですかね。それとも別に認証でも構わない。

○宮田委員　　認証も行きたいですね。

○三橋委員長　　認証も行きたいということですか。

○小泉委員　　いろんな形態を見たいというのはありますね。さくらの小泉です。社福の運営しているところもだし、企業が運営しているところもそうだし、その運営母体によってまた違ったりもするのかなと思うので。

○八下田委員　　貫井保育園は一時保育もあるから、一時保育ちょっと見たいとかいうんだったら園も広い方がいいのかなと思うんですけど。園が小さいところは、具体的な名前言うときにじいろとか、例えば18人全員参加しなくても10人入っただけで、大人10人は結構狭いし、市内に限って言うと、物理的にちょっとすごく迷惑になるような園もあるから、市内に限ってということなら広い園というか、それなりに規模が大きくないと、5人ずつでさっきおっしゃったように回っていくということならいいと思いますけど。

○宮田委員　　幾つかグループに分かれて第1希望順に行くとか、見てみたい園がうまく人数が割れるようにして行く。

○八下田委員　　見てみたい園、何か挙げてもらえばいいんじゃないですか、端から、今。市内で。

○三橋委員長　　別に市内でなくてもいいんですけど。

- 細部委員　　私がちょっと見てみたいなと思ったのは府中市のわらしこ保育園なんですけど、結構知っていらっしゃる方多いんですね。何か府中に実は私の知人もそこに預けていて絶賛していて、うちのちょっと上の子が前原学童なんですけど、今回わらしこさん、縁あって来られて、やはり結構いい感じで今来ているので。
- 八下田委員　　あそこ多分ウエルカムだと思います。
- 細部委員　　先ほどおっしゃってたように、すごく幼稚園チックにいろいろとやらせる。ちょっとハイレベルなことをやらせるというところと、わらしこは恐らくかなり野性児を育てているところだと思うので、小金井の保育園には近いものがあると思うんですけど、それだけいろんな父母から支持を受けるところがどういうふうに行っているかというのものもかきして参考になるのかなと思います。
- 三橋委員長　　市内とか今言った近隣とかだと、かなり父母の中でもいろいろと情報なり話を聞いているところがあったりするので、ちょっとそういったところを参考にしつつ、わらしこなんかあれですよ、学童あたりいろいろとつながり、そのあたりがいろいろだと思うんですけど。
- 寺地委員　　小金井保育園の寺地なんですけども、小金井の市内の水準を見てみたいので、保育の格差があるのかどうかというのを一つテーマにしたほうがいいのかとちょっと思うんです。ぜひそういうのを盛り込んでほしいと思っております。
- 三橋委員長　　そうですね、ちょっと各園の特色を見に行くという意味で。
- 鈴木委員　　ちょっと調整みたいなイメージになってしまいます。本当にそれには出てきた意見を聞いてると、基本的に市内の民間を見に行く。
- 三橋委員長　　ほかに認証園ということも。
- 鈴木委員　　認証もですか。
- 本多委員　　一つ、私は愛の園。ちょっと全く反対の方向なので、東の方面にはちょっと情報が入ってこないの、ちょっと見てみたいなと思います。ほかは、近辺の方はやっぱり何かしら情報が入ってくるのかな。
- 鈴木委員　　あと、例えば少人数、例えば2つとか3つに分かれてというのは、大体皆さんそれはそれでいいということですか。
- 宮田委員　　大人数で一気に行ったら威圧感もすごいし、ちょっと子どもも泣きますよね、多分。
- 三橋委員長　　あとは全員出れるかというところもあたりはすると思うので、日程も場合によっては1日ということではなくて複数回に分けてとか、人数も少し減らしてとか、いろいろ

とやり方はあるとは思うんですけども、そうですね。

○宮田委員 あとすみません、個人的に小平のまるやま幼稚園がやってるこども園が見てみたいんですけど。

○三橋委員長 こども園ですか。

○宮田委員 小平の小川にある幼稚園の保育園も一緒にやってるんですね。なので、ちょっとそこも見てみたい。

○三橋委員長 それは幼稚園型認定こども園ですか。

○宮田委員 多分そうだと思いますけど、今ちょっと職場が離れちゃったんでちょっとわからなくなっちゃったんですけど、ゼロ歳から3歳ぐらいまでの分園もそばにあって、幼稚園もやってて、その中で保育園もやってる形らしいので、これ狭い園庭でどうやって遊ばせてるのかというのもちょっと気になる幼稚園だったので。

○三橋委員長 何か特色があるわけですか。

○宮田委員 何かとにかく子どもに関すること何でもやります的な感じに見える幼稚園だったので、まるやま幼稚園と言ったと思います、たしか。こども園の名前はちょっとわからないんですけど。

○寺地委員 すみません、保育ママは見れますか。

○鈴木委員 保育ママはご自宅でやってるので、なかなかちょっと難しいでしょうね。

○寺地委員 プチ・クレイシュと、あとアスクさんも。

○鈴木委員 プチ・クレイシュは、小金井プチ・クレイシュと北プチ・クレイシュがありますけど、今回認可に移行したところということですか。

○寺地委員 何かその差って、何で一つは認可に入って一つは入ってないのかなという疑問もあるんです。

○鈴木委員 施設規模とか、定員の問題があるんだろうと思うんですけども。

○寺地委員 可能なほうで。あと、アスクさんですかね。

○鈴木委員 いろいろご要望いただいたんですが、全部実現するのは多分難しいので、幾つか上がった施設に声かけてみて、受け入れをまずやっていただけるかどうかというところから確認し、時期的には去年と同じようなタイミングで1回ないし2回で何とか日程組めないかというのを検討し、場所については受け入れていただけるというところをベースにちょっと事務局案的なものを次回お示しできればなというようなイメージで。 1 : 20 :

○三橋委員長　　そうですね、やっぱりどういう方向性に見に行くのか。先ほどのわらしこなり例えば農工大の中にある回帰船とか、やっぱり小金井の中でも非常に特色あって、加えて認証保育そのままだったりとかというところもあったりもしますし、そういったところで我々父母の中でも知ってる人が多いと思うんで、そういうところから、市がだめでも我々のほうから声かけたりとかというのもできないところもないかなというのも幾つかあったりしたりもしますし、回帰船なんかは知ってる人は結構いると思うし、いろんなところで話をしますし、一方でさっき言ったプチ・クレイシュだとかアスクだとかあるいは認証保育園、あるいは認定こども園など、いろいろと観点が違ったりするのかなと思うんで、そういう中で検討、一個一個の違いを見るというよりは、方向性の違ったもので行けるところが幾つかあるかということを含めて、かつ1日2園ぐらいが限界というのが先ほどの話なのかなと。3園行くとちょっと厳しいのかなと。午前、午後と2つぐらいですよ、せいぜい。市内だからちょっと移動時間は前回よりはあれですけどね。

○宮田委員　　でも施設側の受け入れられる人数もあると思いますので、それにやっぱり向こうがこの人数だったらいいですよという人数しかやっぱり行っちゃいけないと思うので、だめならじゃんけんで。

○三橋委員長　　だから、雲柱社さんなんかは多分先生方が行ったりとかってありますよね。だからそれについては興味あるところだけという形でもいいのかもしれないし、ちょっとそのあたりをうまく分散してできないかということも含めて、たたき台をつくって。

○鈴木委員　　ちょっと相談させてください。

○三橋委員長　　わかりました。

○佐久間委員長　　いろいろとご意見をいただきましたので、それを参考にちょっとこちらのほうで調整をさせていただいてまた皆さんにお示しができればと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

では、視察につきましてはそこまでにさせていただき、議題でいきますと(3)になりますが、ちょっと時間的にももうだんだん迫ってまいりましたので、すみませんが(3)の保育の質につきましては次回へ回させていただくということでご了承下さい。

次の(4)の小金井市保育検討協議会の設置についてに入らせていただきます。

資料説明をお願いいたします。

○鈴木委員　　本日、資料の72と73をお配りしております。小金井市保育検討協議会についてと、

それから小金井市保育園検討協議会設置要綱です。

まず、資料72のほうをごらんいただきたいと思います。

1番、小金井市保育園検討協議会についての目的です。子ども・子育て支援新制度のもと、全ての子どもたちが健やかに成長していくために、市内の保育所の設置主体に応じた保育の現状分析並びに市が設置する保育所のあり方等について検討を行い、今後の保育行政について広く意見を聞くため協議会を設置するというものです。

委員の構成につきましては、(1)から(6)番で学識経験者2人以内、公立保育園、この運営協議会の委員から2人以内、民間保育所の園長会の代表、それから認証保育所を営業者の代表、福祉サービス（障がい者（児））の事業者それぞれ1人以内ということで、それとあと公募の市民の方を3人以内という形で、合計10人の委員構成となっております。

それから、会議内容につきましては、案としてですが、この会議で行う内容として小金井市保育・子育ての現状確認、課題の抽出、対応の検討、報告の取りまとめということで、11月を目途に会のほうを運営していきたいというふうに考えてございます。

それから、その後、その他としてですが、協議会からの報告を受けた後、庁内での検討、協議を経て今後における市の考え方について整理を行うというための材料としての報告書をいただきたいということでございます。

資料73をごらんください。今ご説明した内容と若干重なる部分もありますが、要綱について逐条で解説をいたしたいと思います。

この設置要綱は、5月1日に提示をされています。

第1条につきましては設置で、ただいま概要でご説明した内容を設置の目的としています。

第2条、所掌事項は市内の保育所の設置主体に応じた保育の現状の分析に関する事項、市が設置する保育所の管理運営の効率化に関する事項、地域における子育て支援に関する事項、それから今申し上げた3点、前3号に掲げるもののほか協議会が必要と認める事項を所掌事項といたします。

第3条は委員です。委員につきましては、先ほど概要でご説明をしましたとおりとなっております。

第4条、会長及び副会長です。会長は協議会を代表して会務を総理いたします。副会長は、前条第1項第2号に規定する委員、こちらは小金井市公立保育園運営協議会の委

員です。運営協議会の委員のうちから会長が副会長を指名することとなります。

第5条、会議の招集は会長が行うものとします。

第6条は会議の公開を定めています。

第7条につきましては、関係者の出席を委員以外の者に求めることができるという規定です。

第8条については謝礼の規定、第9条は協議会の庶務、第10条は委任規定となっています。

冒頭申し上げましたように、5月1日からこの設置要綱は施行し、27年12月31日までの時限で設置する協議会で、附則にその旨を規定しているところです。

それから、三橋委員長のほうには、5月16日にこちらの検討協議会への委員の推薦についてお願いの文書をお出ししているところです。

説明は以上です。

○佐久間委員長 資料72、73の説明が終わりました。

ご質問等含めまして、ご質疑をお願いしたいと思います。

まず、ご質問はございますでしょうか。

あと、ご意見等ございましたらお出しください。

○三橋委員長 一応、3月、4月と話をきて、先ほど5月16日付というのも五園連でも、あるいはメールでも皆さんにお送りしていると思いますけれども、正式な依頼の文書等が来ているという形に至っております。

前回のところを受けて、要綱がまだできてなかったというところがあったので、要綱がこれから出てきたということと、運営協議会に資料を流すという形で大体の会議内容ですとか、期間は実質6カ月、6月から1月までの6カ月で、その中で8回という中身になっている。

あと大きく違ったのは、連携という言葉を入れてほしいという話があったんですが、そういったところの言葉は入らなかったかわりに、ちょっと抽象的ということは書いてなかったんですけども、協議会の委員から副会長への選任されるというちょっと具体的な内容が入ったというところで、連携を少しでも担保していく形になるというところですかね。そこが大きく議論の中で前回から変わったというか、進展があったところかなと思いますけど。

○佐久間委員長 ご質疑はございますでしょうか。

- 東海林委員 東海林ですけど、8回というのは初年度だけではないですよ。それはもうかたい。
- 鈴木委員 予算上、8回分を措置しているという形になります。
- 東海林委員 でも、それはイコールそれ以上は絶対ないし、あるいは少なくとも8は絶対やるみたいな。
- 鈴木委員 まだ始まっていないのであれなんですけども、事務局的には8回の会議でというふうに考えているところです。
- それがもう絶対のものかと言われると、8回で予算措置している中ではちょっとなかなか申し上げにくいところではあるんですけども、8回でという形になります。
- 三橋委員長 どんな議論になっているんですかね、一般論としては、8回というのが事務局案というか市のほうからあったので、委員のほうからどうしてもやりたいとかなんとかという話があれば、補正予算が間に合わないとかとなってくると、あるいはそれができないとかという話が事務的にあつたりすると、もう手弁当で、みたいな話でやったりとか、議事録の予算も大体ありますけれども、やり方は幾らでもあると思っているところでもあるので、これも運営で会長、副会長ないしは委員の方の総意に基づいてやるという話。ちょっと要綱が12月31日になっているので、これを変えとなると市の方の協力というか12月31日をどうするかという話はちょっとあつたりしますけども、その範囲の中で回数をふやすとか減らすとかいうところは委員の中での話というのも一般論としてはあり得る話というふうに理解いただきたいと思います。
- 佐久間委員長 実質的に、今、三橋委員長がおっしゃったように、この設置したばかりの要綱を12月31日までということで、実質さっきそれ以上という話が出ましたけれども、8回以上になると基本的に市が求めているとすれば、11月を目途に報告書を出していただきたいというのがお願いしたいところなんですけども、それをまとめる内容についても時間を要する中で、6月から始めたとして8回だと2カ月に3回ぐらいですか。そうすると、それ以上になるともっと厳しい日程になってくるかと思うので、それ以上ということになった場合は12月31日をこの設置要綱から改正をするということを考える必要も出てくるかなというところで、非常にタイトなスケジュールの中、本当にこの委員の方にはご迷惑をかけるところだと思いますけれども、なるべく早く皆さんから広くご意見をいただいて、やはり市の考え方を一定決めていきたいなというふうに思っているものでございますので、その点についてはご理解をいただければというふうに思っております。
- ほかにご意見等ございますでしょうか。

○寺地委員 小金井保育園の寺地ですけれども、前回で開催のペースのことは出たし、そこでの連携という話も出たじゃないですか。なので、それをもうちょっと踏まえていただかないと、こちらの委員も2人出るわけですし、なぜ出したかという意味がちょっとなくなってきてしまうので。

あともう一つ、事務局に園長たちは入りますか。

○佐久間委員長 一応園長先生たちは事務局側として、委員さんから何か質問がされた場合には、回答する側として園長さんには待機をしていただくという方向で考えています。そういう方向です。

○三橋委員長 毎回ということでもいいんですかね。

○佐久間委員長 そうです。

○鈴木委員 質疑の状況によってですね。明らかに出る必要がない、出席するかどうかは、結局、会長さん、副会長さんとあと会議全体の中で議論を進めていくわけですから、その中で公立保育園の園長が出席する必要はないという会が出てくれば、当然それは出てくる必要はないというふうに考えています。

○三橋委員長 ただ、あれですね、今この会議内容の案を見る限りだと、柱の立て方とか内容の捉え方というのが公立とか民間とかというよりは、保育・子育ての現状確認、課題の抽出、対応の検討、報告の取りまとめという形になっているので、ちょっと一気通貫というか、流れを理解しないとなかなか話もしづらいのかなと思ったりはするので、そうするとある程度流れを理解して出ていただくような形のほうがいいのかなと思ったりはするので、もちろん園長の中でメンバーを固定でやられるのか、あるいはちゃんと輪番ということで毎回毎回かわられるか、それもお任せになりますけれども、ある程度流れ自体はこのような会議内容ということがあれば、いていただいたほうがいいのかなというふうには思います。

○佐久間委員長 今ご意見いただきましたので、参考にさせていただきたいと思います。

ほかにご意見等ございますでしょうか。よろしいですか。

○三橋委員長 時間のこと、もう2回、先月と先々月という形で議論して、大分論点は出したとは思いますが、その中で、まだ皆さんの中でも具体的に、今、寺地さんがおっしゃられたとおりにこのペースでどうかとか、あるいは8回という中でこれだけの中身というか、我々こういうずっと議論しているにもかかわらず時間がかかるような内容だとは思いますが、それに対して8回でこういった報告書を取りまとめるというのはなかなか大

変だと思えますし、連携していくのもどういふふうにするのかということも大変なところがあるという話があったとは思いますが、それでも前回の中ではできる限りやれるところはやっ払いこうという話もあつてのきょうの話かなと思いますが、今月ぐらいである程度、来月ぐらいからスタートするとかという話もあるので、いま一度、同じことの繰り返しになるかもしれませんが、ここだけはというところがもしあれば、先月の議事録を見てでもいいですけど、ちょっと事務局のほうに言っていたいて。

○細部委員 いや、前回私が期間変えられないのですかというのと、回数変えられないのですかというの聞いたと思うんですけど、回答は変えられないということで決着がついてしまったということですよ。そうすると、今度は2カ月に3回あるこちらの協議会に……。

○鈴木委員 ごめんなさい、発言の途中申しわけございません。車でいらしてる方、いらっしゃいますか。9時になると出庫できないんですね。この下の駐車場ですか。

(「はい。」と呼ぶものあり)

○鈴木委員 そうしたら、申しわけございません、3階に一旦寄っていただいて、ちょっと職員と一緒に出庫していただけないですかね。車、9時過ぎるとあそこ出られなくなるという、ちょっと作業をとめてもらってる状況なんです。すみません。

○細部委員 そうすると、こちらの協議会のほうをどういふふうにするかを連携とついでいきますかというの話しなさいいけなくなるということですよ。しょうがないということですよ、それは。

○三橋委員長 いや、スタート時点はもうこうなので、あとはだから実際にやってみて、本当にこのペースでできるのかということが非常に僕自身も思うところがありますので、例えば会議録ひとつとってもちゃんと時間どおりというのか、資料としてそのペースでできるのか。仮にそれができないということであれば、ペースをどうしますかという話が会議の中で出てもおかしくはないと思しますので、まずはこの中身の案でということであれば、それに対してどう我々のほうで考えるかということなんですけど。

○佐久間委員長 今、タイトな日程であることは重々承知をしております、市のほうも委員の方々にはご迷惑をかけ、また五園保育園の運協の委員さんのほうにもさまざまなご心配をおかけすると思いますが、ちょっと初めてのこういった協議会の立ち上げということもございまして、さっき三橋委員長おっしゃったようにちょっと初めてみないとわからないというような状況もございまして、申しわけありませんが一定これで進めさせていただければと思えます。

○佐久間委員長 逆に、こちらのほうどうするかというところについてご意見ありますか。
どうぞ。

○宮田委員 けやきの宮田です。

会議内容を見ると小金井市の保育・子育ての現状確認というのがあるので、やっぱり今までのまとめをつくったほうが、この資料の48でもいいんですけど、これをベースにしてもいいんですけど、まとめを、この中間報告をある程度出せばこの新しい小金井市保育検討協議会の会議が多少はスムーズに進むかなという気がするんですけど。

○三橋委員長 何とか次回あたりには。

○宮田委員 はい。

○三橋委員長 やっぱり出したいなどちょっと思っています。

○佐久間委員長 今、宮田委員おっしゃったのは、資料48で26年度公立保育園の運営に関するアンケート調査集計、統計のほうでよろしいですか。

○宮田委員 はい。これだと皆さんの個別の意見もたくさん載っているの、これは本当に公立保育園の利用者の生の声だと思うんですね。回収率も合計で77%を超えていますし、一番ちゃんと誰が見てもというわけにはいかないんですけど、ちょっとまとめてあるかというところではないので何とも言えないんですけど、ただ、利用者の声という形では一番わかりやすい資料なので、これを使ってある程度報告ができるんじゃないかなって思うんですけど。

○佐久間委員長 会議を進めていく中での資料の実感としてこれ全部ということではなく。

○宮田委員 全部ということではなくて、結局この公立保育園の運営協議会の中間報告というか、去年1年間の活動のまとめみたいなものが一切出てませんので、やってるのは五園連と運営協議会で共同でやっているこのアンケートが一番大きな行事になってしまっているような現状なので、そのまとめたものとしては、当然他市の園を見に行ったりとかそういったこともやっているんですけど、そういったことをまとめていくとちょっとふえ過ぎてしまって簡単な報告物にならないと思うので、こういったことをやりましたという形で公立保育園の運営協議会ではこういうことをやっています。これを見ると、公立保育園の保育の現状はこうですよというのがうまくつくれるんじゃないかなって今思ったんで、これを使ったらどうでしょうか。

○三橋委員長 おっしゃるとおりで、このアンケートもそうですし、あとは意見、要望として出しているものもありますし、あるいは園の先生方のほうから保育の質という形で出してもらっ

たりとかもあったりするので、そういうのを議事の折に触れて出せる機会というかタイミングですかね、それも運営の仕方ですらという議論の方向なりやり方になるかも違ったりするんですけど、やっぱり効率的な話、効率化とかなんとかという話がある裏側には、効率化をすることによって問題点とか課題とかも当然出てくるので、そういったところも含めて議論ができるような形には、個人的にはそうしてほしいなという思いはあったりはしますけれども、ちょっとそのあたりうまく出せるようにしたいかなと思ったりはします。

今までやったやつですが、もうちょっとやっぱりシンプルにまとめておくというのは大事だと思うんですけど、今まである資料というのはしっかりと使っていききたいなというふうには思っています。

○佐久間委員長 ほかにご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、この議題に関しましては終了させていただきます。

次の(5)の当面の課題についてでございます。

○三橋委員長 ちょっともしあれでしたら、一応委員の選定とかがまだあるので、ちょっとこれ終わった後で構わないので、ちょっとメンバーがこれだけ集まるのはなかなか大変なので、終わった後で少し話ができたらと思います。

○佐久間委員長 じゃ終了後にそれは調整していただくということでお願いします。

資料が出ていますけれども、藤井補佐から。

○藤井委員 それでは、議事の(5)当面の課題について説明させていただきます。

資料の74番をごらんください。職員の募集配置状況でございます。

1番の臨時職員につきましては、右の欄、5月25日現在で3園で不足人数がございまして、合計で2.69人ということになってございます。特にくりのみ保育園と小金井保育園につきましては丸々1人ずつが充足できていないということでは、これを早急に解消するように調整してまいります。

それから、2点目の非常勤嘱託職員、下段でございますが、こちらにつきましてはくりのみ保育園で11時間パートが1人欠員ということでございますが、先日こちらの採用試験を行いまして、6月1日付では採用できるということになっております。

職員の募集配置状況につきましては、説明は以上です。

○佐久間委員長 いいですか。今月いっぱい、だから6月1日という話につながるということをおっしゃったんでしょ。そこがわかんないぞと思ったら、そこだけ言ったほうがいいと思う。

5月いっぱいまでいらっしゃるから、要するに間があかないということ。

○前島委員　　くりのみ保育園の11時間パートの職員は5月いっぱい退職になりますので、6月1日に採用になりますので、あく状況は今のところはないです。

○三橋委員長　　欠員数が1人となってるけど、欠員ではないということですね。

○前島委員　　はい。

○佐久間委員長　　今、前島さんのほうからも大体ちょっと補足いただきましたけれども、資料の説明は終わりましたので、何かご質問等ございますでしょうか。ご意見等でも構いません。

○小泉委員　　すみません、さくらの保育園だよりに任期つきのことと調理員のことが出てたと思うんですけど、それはこれに載ってないわけですか。

○福野委員　　さくら保育園つきが5月末で退職するんですけども、6月1日から臨職なんですけれども配置されるので、欠員の状況ではない。

○佐久間委員長　　ありがとうございます。よろしいですか。

○東海林委員　　くりのみの東海林ですけども、この過去の特定の例えば1日の、6クラスぐらいあると思うんですけど、何々先生が何時から何時まで、何々先生が何時から何時までと丁寧に過去の状況って調べればわかるものなんですか。。

○佐久間委員長　　よろしいですか、大丈夫ですか。

○東海林委員　　じゃちょっと補足すると、この時間数でずっと示していただいているんですけど、何か正直僕、昼間の時間ってほとんど先生が配置のところというのをわかってなくて、当初、この話がもともと退職補充の話があったときに、2週間ずっと今までは1人の先生がついてたのに、それが4日と1日みたいな感じになっちゃうとかという話、結構長くしたと思うんですけど、実際例えばサンプルで過去の1週間みたいなのをとって行って、どうだったのかというのがわかるのかどうなのか。

○前島委員　　くりのみ保育園ですか。

○東海林委員　　はい。

○前島委員　　わかります。仮にこのくりの保育園の今の状況は、1人の欠員は新たに加配になったお子さんなので、今、1人分の職員がいないという、今までとはちょっと違う状況なので、その1人分はこれからの加配の方で、もう一人は少し、0.07不足分は朝8時半からお子さんが来るんですけど、これは加配のお子さんなんですけども、8時半からお子さん来るんですけども、臨時職員が9時からということで、あく日もあるという形になっています。。

- 東海林委員　　今後もし見れたらいいなという資料の一つに、退職補充なんですけど、あれがあったのが26年にあったばかりですので、25までと26以降と、その実際の配置の様子が何か比べられると、人の配置の面でどういうふうに移ってきてるのかなというのがわかるかなと思ったので、そういう意味でもし過去の書類をめくって再現できるのであればと考えるので、この協議会でやっていくのかなということ。できるかどうかというのを。（発言する者あり）
- 前島委員　　できますが、時間がちょっと必要になります。
- 東海林委員　　そういうのが必要かどうかということも含めて、検討していただければと思います。
- 佐久間委員長　一応ご意見として受けとめさせていただきたいと思います。ありがとうございます。ほかにご質問、ご意見等ございますでしょうか。
- 三橋委員長　　これ不足の人数が2.9で募集人数が9人となっていますけれども、これはあれですかね、どこまでこの募集人数に意味があるのかという話なんですけども、例えば1人で加配の方1人足りないとかという形ですけど、これを2人でやっても全然問題はなかったですよって、0.5、0.5で募集を2人にしても全然問題はないということではない。
- 杉山委員　　それは1人のほうがもちろん。
- 三橋委員長　　いいということなんです。例えば、一方で30分で1人という形になってるんですけど、30分のためだけに1人とするという形がいいという形になるのかどうかということも兼ね合い、そういうわけではないという形。
- 杉山委員　　これは単純に足りないのを数字であらわしてるものだから、0.07人ということもあり得ませんし、本当は8時半から5時の7時間半勤務してもらいたいけれども、どうしても欠けてしまっている状況があるということなんだと思うんです。だから30分だけ入ってほしいわけでは決してないんです。
- 三橋委員長　　では、この0.07何とかいうのはある意味時間換算を人数に変えたということで、それはそれで一つの見方というかそうだと思うんですけど、これに対してじゃこの募集人員をどうしたらこれが解消できるのかなといったときに、1人なり9人募集すればいいのかというところもそういうもんでもないのはちょっと思ったりはしたりしたので、30分、もっと長くやっていただける方がいるのかとか、あるいは配置をうまくすることで何とか30分出てくるのか、ちょっと何とも言えないんですけども、中身によってそれは多分違って、考え方というのはもう2人とかじゃなくて1人で1.0みたいな形、それ

は確かにそういうふうにおっしゃるほかないのは間違いないと思うんで、ただ、それを2人とかそういうような募集の仕方はされないということですね。基本的にはもう1人でやってほしいという形での示し方をしてる。わかりました。ありがとうございます。

○佐久間委員長 ありがとうございます。

ほかにご意見。

○小泉委員 すみません、ちょっとこの資料と直接の関係がないんですけども、ちょっと自分の子どものほうから何々先生が5月から来るんだと4月のときに言っていて、よく聞いてみたら障がい児のお子さんの加配の先生が1カ月いないという状況だと。かわりに担当の方なんかが入ったらしいんですけど、それはどうしてか教えていただけますか。(1:55:00)

○福野委員 さくらの福野です。

その方は臨職の職員で、1年雇用したら1カ月休まなくてはいけないという約束があったために、また1カ月休んでから更新みたいな感じでこういう形になっています。

○三橋委員長 個人的な契約ということですかね。もう一般論として、1年やったら1カ月の休みという。

○福野委員 そうです。

○三橋委員長 そういうふうになってるということですか、臨職さんの場合。

○鈴木委員 ずっと連続して数年はできない。

○佐久間委員長 今は1年です。

○三橋委員長 臨職の場合、1年で1カ月。

○鈴木委員 1年働いて、一月あけて再度そこからまた1年とか。

○佐久間委員長 同じ方をお願いするとすればそういう取り決めがあるということで、1カ月だけブランクがあいてしまうということです。

○小泉委員 その一定期間というのは必要ないという通達が出てるという話を聞いたので、なおさら何でかなと思ったんですが。

○佐久間委員長 本来は臨時職員の方については基本的に登録制度になっておりまして、登録をしていただいているいろいろな、こういうご時世でもございますし、余計にさまざまな方にその労働の機会を与えるということもやはり市の責任になってくると思います。長期に同じ方をということになると、ほかの方のチャンスを減らしてしまうことにもなるということもありますことから、引き続き同じ方のほうがもちろんいいですよ、仕事の的には。

それは現場でも事務でも同じことなんですけれども、長期に代替としてそういう方を頼むということについては、本来はいろんな方をお願いをしたいところなんです、実態がなかなかそれになじまないとか、そういう状況がありますので、引き続き同じ方にやっていただきたい。

保育園の場合は特にお子さんの関係がございまして、同じ方をということになりますと先ほどのことがどうしてもネック、ひっかかってしまうということがありますから、1カ月間をブランクをあけて、また同じ方に来ていただくというのが取り決めになっておりますので、そこはそうようにご理解をいただきたいと思います。

○小泉委員 その取り決めになってないとか、一定期間を直接置くことを求める規定はないというふうに聞いているんですね。

○鈴木委員 それはどこで。

○小泉委員 そういう通達が出てるといふふうに聞いているんです。再度の任用の場合でも、もう新たな任期と前の期間の間に一定の期間を置くことを直接求める規定は地方公務員法を初めとした法令において存在しないといふふうになっているそうなんです。臨時職だということ、臨時職的な処遇なので、1年以上雇用された場合に継続して同じ方が臨時職というのはそれは臨時じゃないじゃないかということで指摘される可能性があるということ、そのように一定何か期間を持っていた例が、置いていることが今まであったみたいなんですけども、特にそういうことを規定した法律というのは存在しないと聞いているんです。

○鈴木委員 そういう職員の雇用の関係の法律は、すみません、つまびらかに存じ上げないので調べてみないと明確にお答えができないんですけど、今、国と地方の関係で通達という形で指示は出てこないんですね、たしか。そういう例えば法の解釈とかそういうところの技術的助言として何か出ている可能性がありますけど、すみません、確認しておりません。

今、市へ臨時職員の雇用に関する規定につきましても、ちょっとそれに基づいて今の対応をしているということになりますので、それを連続して一月とかブランクをあけずにずっとやってもいいというのはうちの内部の規定上はなっていないはずなんです。

○三橋委員長 それはあれですね、臨時職はすべからく1年以内にして、1年をたった場合は1カ月の休みをとるといふのが市の臨時職の採用の規定としてある、そういうことでよろしいわけですね。

- 鈴木委員 というふうに聞いています。すみません、その条文等についてここで確認できてるわけではないので、ちょっと確認してみますけど。
- 寺地委員 小金井保育園の寺地なんですけど、でもこれは小金井市ではそうしてるということですよ。ほかの市や区で臨職が1カ月空白期間を置かないで採用されてるところもあるので、じゃ小金井市はそうしてるということで。
- 鈴木委員 あるんですか、それ。
- 寺地委員 あります。
- 鈴木委員 そうですか。ちょっとすみません、ほかの市の雇用の状況というのは私ちょっとわからないので、さっき言ったように確認してみたいと思います。
- 寺地委員 もしそれを調べていただいて、ほかの区や市でそういったケースがあるということがわかりましたら、小金井の中でどちらかという保護者の方が安心して預けるということが前提だと思うんですよ、やっぱり。それを踏まえた上で考えてもらいたいと思うんですけども、先ほど何か臨職さんの採用、広範囲で……。
- 佐久間委員長 雇用の均衡化ですね。
- 寺地委員 言っているんですけど、臨職さんが欠員で足りないくらいだから、余りもうそれは実態に即してないので、もうちょっと現実に目を向けてほしいと思うので。
- 佐久間委員長 現状になかなかなじまないという状況は、私も理解するところです。
先ほど課長が申し上げたように条例は各市で決めておりますので、市によつての違いはあるかと思えます。ただ、ちょっと今、私のほうも手元に何も持っておりませんので、それは確認させていただきたいと思えます。他市との違いであるとか、今申し上げた内容は間違いないかどうかということについても確認をさせていただきたいと思えます。
- 小泉委員 ちなみに、平成26年の7月4日に総務省から出ている「臨時非常勤職員及び任期付職員の任用等について」という文書の中で、先ほど言った任期の設定についてというところで、再度の任用の場合であってもという何たらかんとらという文章が入っています。
- 鈴木委員 厚労省ですか。
- 小泉委員 総務省。
- 鈴木委員 それは技術的助言ですか、地方自治法上の。最後のとこに書いていませんか。
- 小泉委員 ちょっと私のほうはわからないですけども。
- 鈴木委員 確認してみます。
- 佐久間委員長 確認させていただきたいと思えます。

- 寺地委員 すみません、もう一つ、小金井保育園の寺地です。
先ほどの東海林さんの言われた資料の中にちょっと盛り込んでほしいんですけども、人の入れかえがどれだけ多くなったかというのがわかるようなものって入れられますか。
- 鈴木委員 人の入れかわりが、さっきの東海林さんの資料に入れられますかという。
- 前島委員 前島です。
25年、6年と比較してというか、全日数だとかなりのものを資料を出して、職員課にもちょっともう一回確認をしたりしなきゃいけないので、どこら辺の、例えば月単位で変わっていくとか、まとめるに当たってもかなり難しい。
- 東海林委員 ごめんなさい、言い出しっぺなので補足しますと、僕、その1年はとてもじゃないけども無理だと思って、せめて1週間で様子は大体わかる。サンプル的な5月でも6月でもどこでもいいんですけど1週間をとってみて、実際の職員の配置というのがまず僕の趣旨なんですわ。
- 三橋委員長 違いますね、意味がね。
- 東海林委員 今おっしゃった入れかえのところについては、今ぱっと目についたのは例えばそっちの1年間で実際に働いた人の単純な人数があって、それを比較するとわかるかなということでしたでしょうか。
- 寺地委員 本当、保育の現場って、私はちょっと細分化されてることが多いので、もともと人の入れかわりって多いと思うんですよ。いろんな職種の方が入られてるとか、平均過去どれぐらいのものがもう日常化しているというのがあると思うんですけど、それに加えて26年度の正規の不補充に当たって非常勤になったことで、さらにそこにどれだけ人の入れかわりがふえたのかというのについても、わかりやすくは出てほしいなと思う。
何が知りたいかといったら、保育の現場とか福祉の現場で人の入れかわりとか多いとヒヤリハット、ミスにつながって、事故につながりますよということをちょっと視覚化で見たいなという。
- 三橋委員長 それはあれですかね、どれくらいの期間という。
- 寺地委員 それもあるので、だからもともともう欠員が常態化していて、臨職さんとかも。さらに空白分があったりするから、もう本当に常態化しているものがどうなのかという問題もあるんですけど、何年だろうね。
- 三橋委員長 例えば、だから今言った1年だけでも相当なボーリングになっちゃうということだと思うので、例えば4月、5月とか1カ月なら1カ月の間隔とか。

- 宮田委員　　そしたら先生方的に、体感的に一番これはきつかったわという月を1カ月なり、非常にきつかったわという月を出してもらえば、この日本当フルで働いたわよねっていう月を出していただければいいんじゃないですかね。例えばそしたらその1週間だけでも、わあ、こんなに人が入れかわって細切れでやってたんだとか、こんなに長い時間やってこれちょっとまずくないとかそういうのが出てきちゃうかもしれないですけど、そういうのが一目でわかるんじゃないですかね。先生方はそれ多分一番わかってると思うんです。この月きつかったという月を出していただければ一番いいんじゃないかなと思います。
- 三橋委員長　　そうすると入れかわりがいいのか、それとも一人の人が長く働いていて、欠員に近いような話になるのかということも今の話だと出てくるとは思うので。
- 寺地委員　　フリーの人が正規だったら長くなるじゃないですか。でも、子ども一人にとってどれだけ人が入れかわったかという視点のほうが知りたいし、その不補充のときってそれが問題だったと思うので。
- 三橋委員長　　今、宮田さんの言うのと、ちょっとまた少しあれが違うかもしれませんけれども。
- 宮田委員　　その入れかわりとか何か人の配置とかってことで考えると、多分シフトを組むときにこれちょっとどうしようってすごい悩まれた月って絶対あると思うんで、その月とかその週を出してもらおうとかでわかるんじゃないかなって気がするんですけど、いかがでしょうか。
- 三橋委員長　　そうするとあれですかね、何かある意味ひどいときとひどくなかったというかよかったときというか、本来であればこうだみたいなどの比較みたいな感じ。
- 宮田委員　　ないかもしれない。ないわとか、5年前だわとか。10年以上前かもしれない。そうするとこんだけ少ない人数でこれで回してるんだとかというのがわかるかな、ちょっと……。
- 三橋委員長　　サンプル1週間でしょうね、そうなってくると。今の話だったら、こちらのほうの話は1週間ぐらいかなと思いますけど、入り繰りというか、これだけ細切れになってますという。
- 宮田委員　　1日でもわかるのかなと。例えばシフト表とか、例えばアルバイトとかでも重なってる時間とか完全に抜けてる時間とか間があいてるとか、そういうのはシフト表とかってあるじゃないですか。
- 鈴木委員　　寺地さんがおっしゃったのは、人はどんどん入ってきたりやめたりというイメージじゃないんですか。

- 寺地委員 1日だとそれは今の臨職さんの問題とか、あと長期で見たほうがわかりやすい部分もあるので、その子どもの保育計画を立てられるときに例えば6年で見て、さらに1年で見るというふうに立てるじゃないですか。そのときに人がどれだけ長く携わってるかということが。
- 鈴木委員 なので、例えば1年間通じて人がどういうふうに入ってきてやめてというのが見たいわけですね。
- 寺地委員 あと、保育の中にどれだけの職種があるのかみたいなの。
- 鈴木委員 宮田さんがさっきおっしゃったのは、一人の子どもが……。
- 宮田委員 乗かった形ですけど。
- 鈴木委員 一人の子どもに例えば朝はこの人がついて、10時から何時までこの人がついてとか。
- 寺地委員 でも、それはわかりやすい。
- 鈴木委員 またちょっと違う視点ですね。
- 寺地委員 視点がちょっと違っちゃう。
- 三橋委員長 正直1年間となると、相当きついというか相当入れかわりが激しいので、ちょっと1年とかなんとかという単位はそれだけ資料つくるだけでも、先生方の負担がかなり大きいかないかと思っただけです。
- 宮田委員 園だより見ればわかると思う。園だよりで見れば誰がどうとか。
- 三橋委員長 どこもそうなると思う。
- 三橋委員長 多分、園だよりで見れば。1年間それでいけますかね。
- 宮田委員 1年間いけるかなと思いますけど。
- 三橋委員長 そのレベルでいいのかな。だから逆に言えば、毎月毎月この人が入りました、この人が出ましたというものの数でいいということであれば、1年間ぐらいで何人入れかわりがありましたかというのは確かにできるけども、それはでもある意味あれですね、その中身の問題にもなりますよね。当然産休だとか育休代替とかそういうのもあるし、今言ったように臨職さんがかわっちゃうケースもあるしというところで、そういうところが結構難しいといえれば難しいというのは思ったりしますが、ちょっと少し整理したほうがいいなとも思うので、東海林さんが言われた1週間ぐらいの配置でどういった1日なり1週間のスケジュールを組んで、子どもがどれくらいの人と重なってるか。
- 自分のクラスのこととはある程度わかるんじゃないかなとかって思ったりはするので、その自分のクラスのやつを多分それを全クラスにしてみるとそういうのがつくって

く、そんな感じのイメージでよろしいんですね。

○東海林委員　あと、だから前後の状況を見てみたいというのもあるんですよね。大分そのときに話をしたので退職補充の話で。状況、昔から細切れだったよっていうふうになるんであればそれはそういう話だったと思うし、逆にあそこの退職補充の話で大きく今まで安定的に入ってた人が細切れになっちゃったという話であれば、やっぱりここの影響が出てきたということがわかるのかなと思うんです。だからクラスもさることながら、僕の感じとしては、その25末と26の頭のところの前後の様子がわかればなという。

○三橋委員長　わかりました。ちょっとそのあたりのところがうまく、それってある意味数字というか、結構量的にはっきり出てくる場所であると思うんですね。一方で、多分今までの正規とか職員の話とかってその数字にあらわれない部分もあったりするかなと思ったりするんで、実際にフォローしたりだとかカバーしたりだとか、あるいはやってる中身、担任だとかなんとも含めたところもあるので、そこはちょっと適宜若干補足していただいたほうがいいのかなと私は思いますけど、またちょっと今東海林さんのほうから話があるこの数字という意味で、こういった体制だったらこういうふうな体制になりましたというところが25と26、ないしはその退職不補充なり30時間保育の話ですかね、で変わったことによってこんな形に体制が変わりましたというところが見えるような形になればというところなんですけど、そんなきれいにうまくいくかなというところはちょっと。

○東海林委員　まず、検討してもらって、その上でですけど。

○三橋委員長　そうですね。そこら辺相談させていただいて、ちょっとぱっと出てくるかなと思いましたが、一方で今言った寺地さんのやつについては、1年間ぐらいの人数みたいなのがどれくらい入れかわりしましたかというところが、それこそ二、三年前のけやきだとか、あるいはくりのみも去年あたりとか、去年でしたっけ、ちょっと低かったときがあったりとか、どうだったかとか、あるいは欠員期間が1年間続いていましたとかそういう話はあったと思うんですけど、そういう中でちょっと子どもたちにとって入れかわりというものがどの程度あったのかというところを知りたい、そういうことですね。

○寺地委員　先生って、何かその辺の現状の分析とかされないんですか。

○三橋委員長　やっぱり、日々のところで手いっぱいだと思うんで。

○前島委員　そうですね。分析はちょっと。

○三橋委員長　俯瞰的に見るというのはなかなかちょっと大変だなという感じがしますが、ちょっ

とそのあたりもし出せればというところで、後日、保育園を通じてでも、あるいは直接父母と離す中でも全然いいと思うんですけど、話が……。

○前島委員　　ちょっと聞いていいですか。東海林さんがおっしゃってるのは、例えば25年に正規がそろっていたクラス、次のクラス、例えばゼロ歳に関したら25年は正規が4人そろってました。26年は正規が補充されなくて、保育非常勤が2名増員されました。臨時職員がいない状況がほかのクラスにありましたというような対比ということですか。

○東海林委員　　そこを表というか、例えば8時、9時って来られとって、Aさんが何時から何時までおりました。1人じゃないですよ、クラスで。Bさんは1時間おくれて9時から何時までいましたとかという1日の表って、さっき加配とかっておっしゃっていたので、あの辺を入れると細くなり過ぎてどうなのかなとは思ったんですけど、基本的にずっと長くいるイメージと、朝と夕方というところもまたあると思うので、そのあたりのブロックじゃないですけど、そういうものがあるとわかりやすいかなと思ったりする。単純に何月から何人いませんという言葉で聞いても、実際現場がどういうふうな配置だったのかというのはちょっと正直イメージが湧かないので。

○三橋委員長　　もしよろしければ1日のシフト表ですか、多分それを見るだけでも相当きついということが、聞いたりとか認識持ったりしてるんですけど、1日のシフト表を理解するだけでも結構大変なのかなとかって思ったりするので、それをちょっと言っていただいて、その上で父母としてじゃ次こういうふうなことできませんかとかというのが、じゃないと多分デフォルメしてもらわないと、例えば30時間保育2人になったんで、でもそれは単純に一つのクラスで1日ずっといるというよりはある意味玉突きでいろいろとやられたりとか、園によってはまたやり方が違ったりとかすると思うんで、単純に正規が30が2人になったからといって簡単にぱっと見えてくるものではないと思うので、そこを見えるような形であえてちょっと抽出してわかりやすく表にしてもらうのか、それともこれだけ複雑なんですよみたいな、どうぞごらんになってくださいみたいな感じの話のほうがいいのかというのはちょっと今僕のほうも実物がない中で抽象的に話しても何かイメージが湧かないんですけども、ただ、父母のほうとして問題意識としてあるのは、やっぱり子どもたちが細切れになってるとか、具体的に影響を受けてるというようなところがあるので、それをどうにかして可視化できないかという思いがずっとあったりしてるんですよ。それはちょっと我々五園の中でもよく話が出るんですけど、それをどういうふうなやり方したらできるのかというところで、何かご相談できるやり方がない

のかという趣旨で一度検討できないかなというところなんですけど。

そんな中、深く技術的なところに入っていきよりは、まずはそういった子どもたちに対する影響なり細切れなりというところが、具体的にちょっとどういうふうにしフトなり、人員配置のところで見えてくるのかというところが出てくればいいのかなど思ったりはするんですけど、うまくいけるかどうか。

○東海林委員 ポイントとしては、あの前後で変わったというようなところ。それとも、そんなにもとから忙しいからということもあるとは思いますが。

○前島委員 前島です。

くりのみ保育園に関しては、すごく変わったと思っています。正規でなくなった分が臨時職員さんでいない場合は対応したり、非常勤2名だったり保育士がいなかったということでもかなり変わって。1年前と比べると、人の配置は変わってきています。でも、正規がいたころよりは、やっぱりおっしゃってたように人のたくさん職種の方がお仕事しているので、その分、細切れとは言わないですけども、同じ方がずっと一緒という形ではないです。

○三橋委員長 判断はちょっとあれですね、東海林さん言われたところもありますし、あと結果的に変わったというのがはっきりとおっしゃられたんで、それは何なのかというところが、まず30時間保育2人になったこととか、今現実正規とか変わったところが何なのかというところの前からちょっと整理しなきゃいけないという話があったと思うので、それはぜひ今回の議論をきっかけに、今、東海林さんからの質問をきっかけに量的なところだけじゃなくて、実際に実感含めて質的なところも含めて整理していただくと父母としてもありがたいかなと思ったりはしますし、逆に父母のほうもこういうところが違って来たとか、こういうのがあるとかということがあれば、むしろそういうところを父母なりに気がついたところがあったら言うことは非常に大事だと思うので、そのあたりは別途話ができたらいいんじゃないかなと思います。

何か時間が大分かかりましたので。

○佐久間委員長 なかなかその資料がすぐにできるということでもないのですが、資料についてはちょっとお時間をいただくということで、お2人意見いただきましたので、極力わかりやすい形でつくるためにもちょっと時間を要するので、次回ということではなくちょっとだけお時間いただくということで、そこは調整をさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

それでは、当面の課題につきましては、申しわけありません、これで終了させていただきます。

次に次回の日程でございますが、ちょっと休憩を入れます。若干休憩します。

休 憩

再 開

○佐久間委員長 では、再開いたします。

次回の日程につきましては、6月23日の火曜日午後7時半からと決定をさせていただきます。場所につきましては追ってまたご通知を申し上げますので、よろしくお願いいたしますと思います。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。遅い時間まで大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

閉 会